

市長	副市長	部長	課長	参事	課長補佐	係長	記録

【所属名：市民部環境生活課】
【会議名：糸魚川市交通安全対策会議】

■開示
一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会議録

作成日 令和5年2月21日

日	令和5年2月7日(火)	時間	13:30 ~ 14:30	場所	市役所 203・204 会議室
件名	令和5年度糸魚川市交通安全実施計画(案)について				
出席者	【出席者】(以下、敬称略) 米田 徹、高野 齊、内山 嗣久、柴田 一博、佐藤 忠行(代理出席)、渡邊 元(代理出席) 靄本 修一、武藤 悟、木島 美和子、古平 明(代理出席、)小野 聡 【Web参加】 藤本 祐文、高橋 広治(代理出席) 【欠席者】 比護 泰子 【事務局】環境生活課 猪又 悦朗、山岸 由尚、大矢 知己 【説明員】糸魚川警察署交通課 池上 和弥				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	0人

会議要旨

<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 令和4年交通事故発生状況について(糸魚川警察署 池上交通課長)</p> <ul style="list-style-type: none">・市内交通事故状況は、死者数は減少した(1人 前年比3人減)が、発生件数・負傷者数がともに増加した(発生件数:46件 前年比2件増、負傷者数:53人 前年比6人増)・県内においては、発生件数・負傷者数は減少したものの、死者数が大幅に増加(61人 前年比14人増)。死者数は年々減少傾向だったが平成30年以降の増加に転じた。・特定事故の発生状況のうち「高齢者事故」については市内、県内において高い発生割合を占めている。特に県内の死者数については「41人」と、全死者61人の約61%を占めている。県内の高齢者の死者数については平成16年以降、19年連続で全死者の半数以上を占めている厳しい状況。・市内交通事故発生件数46件の事故を分析した結果、7つの特徴がある。 ①午後5時から午後6時が多発時間帯(全事故46件中7件→7件中4件が重傷事故) ②国道での事故が最も多く発生している(全事故46件中25件→25件中21件が国道8号) ③事故類型別では「車両相互」の事故が多い(全事故46件中28件、全体の約60%、「追突事故」が最も多い) ④交通事故違反別では「前方不注視」が最も多い。(全事故46件中15件、前方不注視の中でも

「脇見運転」が多く発生している)

⑤高齢者の事故が多い(全事故46件中24件、全体の約52%。県内の45%を上回っている)

⑥重傷事故が多い(全事故46件中17件、全体の36%。県内の19%を大きく上回っている)

⑦二輪車事故が多い(全事故46件中10件→10件中7件が重傷事故)

5 議題 令和5年度糸魚川市交通安全実施計画(案)について

(委員) 21ページの令和4年度の主な実績について、踏切通行時における安全意識の向上のところが「実績なし」となっておりますが、実際は踏切の安全の啓蒙活動ということで、小学校、タクシー・バス会社を対象に安全意識の向上ということで、秋の踏切交通安全の際にポスター配付と合わせて訪問し、お声がけをさせていただいております。これを付け加えていただけると助かります。

(会長) ありがとうございます。事務局よろしいでしょうか。

(事務局) 申し訳ございません。案作成時に修正が漏れておりました。追記させていただきます。

6 その他

・県が行った安全・安心緊急施設整備事業について紹介

①県道 西中糸魚川線(東寺町地内)・・・横断防止柵、路面標示の設置による乱横断対策

②県道 西飛山能生線・・・ドットラインの設置(減速を促す)

③県道 山之坊大峰小滝線・・・道路拡幅工事(観光道路及び地域住民の生活道路の安全性向上)

・事務局から、来年度実施予定の交通安全対策事業として「急発進抑制装置」の購入費補助について紹介。3月議会で承認いただければ4月から制度開始予定。

(委員) (ペダル踏み間違いによる交通事故は) 当市・当県に限らず全国的に問題になっているので、我々としてもありがたいと考えております。

(会長) 議会で承認いただければ、関係者の皆様からも普及啓発をお願いしたいと思います。

・委員から、来年度の踏切啓発活動について説明あり。

(委員) 昨年は、妙高はねうまラインの「南高田駅」において、上越警察署と交通安全協会から協力を得ながら啓発活動を実施しました。新年度については、はねうまラインと同時に日本海ひすいラインの方でも啓発活動を実施予定で、内容は検討中です。また関係者の方々にもお声がけさせてもらい調整したいと考えています。

(会長) 踏み込んだ事をお聞きしたいのですが、やはり危険な踏切横断等はあるのでしょうか。

(委員) 警報器が鳴ってから踏切を渡る人や遮断機が下りるか下りないかのタイミングで渡ってってしまう人もいます。どうしても急いでいる方は、ついつい警報が鳴っている中を渡ってってしまう状況があるようで、そういった渡り方は大変危険だということを周知していきたいと考えています。

・委員から、通学路点検の実施について情報提供

(委員) 関係機関との連携により、早期に修繕対応等していただいている箇所が多くあり感謝申し上げます。今後も継続予定なので、御協力いただきたいと思います。警察からも安全指導の方で見守りいただき感謝申し上げます。今後も継続してご指導いただきたいと思います。

7 閉会